

2014年度第4回 日本学連幹事会 議事録

開催日時：2015年(平成27年)3月5日(木)16時9分～18時44分
8日(日)19時59分～20時30分

開催会場：新城地域文化広場 302講習室(愛知県新城市・5日)
ホテル明山荘 コンベンションホール『鳳凰(D)』(愛知県蒲郡市・8日)

【議題】

1. インカレミドルBエリートについて
2. 大学院生の加盟登録について
3. 会計について
4. インカレスプリントについて
5. 学連30周年記念行事について
6. 後援申請
7. 理事会報告
8. 次期幹事について
9. 技術委員会報告
10. 各部局活動報告
11. 各地区学連活動報告
12. 次回幹事会、総会について

【出席者】(敬称略)

氏名	役職	学校名
山川克則	副会長	東京大学卒
宇井賢	幹事長	京都大学
佐藤大樹	副幹事長	東京工業大学
平野大輔	事業部長	名古屋大学
高橋秀明	広報部長	金沢大学
新粥文哉	事務局長	千葉大学
杉村俊輔	普及部長	東北大学
大久保宗典	会計	東京大学
野本圭介	会計監査	筑波大学
五味あずさ	会計監査・来年度幹事長	金沢大学
田中悠	来年度広報部長	慶應義塾大学
細正隆	来年度普及部長	東北大学
築地孝和	来年度事業部長	神戸大学
田中基成	来年度会計監査(現 筑波大涉外)	筑波大学
田口茂樹	来年度会計監査	岩手大学
大川拓哉	北東学連幹事長	東北大学
久須美裕	北信越学連幹事長	新潟大学
村瀬貴紀	関東学連幹事長・来年度副幹事長	筑波大学
今井祐太	東海学連幹事長	名古屋大学
糸井川壮大	関西学連幹事長	京都大学
田中求	来年度北信越学連幹事長	金沢大学
小泉知貴	来年度関東学連幹事長	慶應義塾大学
石山良太	来年度東海学連幹事長	名古屋大学
松浦知佑	来年度関西学連幹事長	大阪大学

※

※5日のみ出席

議事録作成：高橋 秀明(広報部長・金沢大)

2014年度第4回 日本学連幹事会 議事録

発言者 (敬称略)	発言内容など
	1.インカレミドルBエリートについて
	<p>1月の幹事会で決定された、「Bエリートを廃止した上で、ミドルエリートの人数は男子60人、女子30人」とした方針についての、加盟校からのアンケート結果について確認し、特に反対意見について議論した。その結果、これまで通りの幹事会の方針を維持し、総会での承認を目指すこととなった。</p>
宇井	<p>2月に各加盟校を対象に実施したアンケートの結果をまとめた。加盟校22校から回答が寄せられたが、そのうち廃止に賛成だったのは18校、反対・その他は4校であった。 純粹に反対したのは1校で、その他3校は、「Bエリートを残しつつ、Bエリートの上位がAエリートの枠を取れるという制度をなくす」(京都大・福島大)とか、「Bエリートを廃止して一般上位クラス(Advanced クラス)を設ける」(千葉大)という意見であった。 しかし、一般上位クラスについては、幹事会では「一般クラスで争っても、上位を目指せば、モチベーションの問題、存在価値が見いだせない」という理由で、設けない方針となっている。多数ではないので、その方針を変える必要はないと思う。また、前者については、「Bエリート」という名前に魅力を感じているのならそういう意見があると思うが、現実的には、枠が取れるからこそ価値があるのだと考えられ、実質的には一般上位クラスと同じなので、(1月の)幹事会としては、同じ理由で必要ないだろうという意見となった。 →特に異論は出されず、この方針を総会で説明することとなった。</p>
	<p>次に、Bエリートを廃止した場合のエリート的人数だが、回答数の半分以上の加盟校が「男子60女子30」とした幹事会案に賛成した。それ以外には、「男子60女子40」、「男子80女子40」という意見が出されたが、後者については、スタート時間が延び運営の負荷になるうえ、エリートにそこまでの人数が必要なのか、疑問がある。そのため、(1月の)幹事会では、そこまで人数を増やす必要はない、とした。 一方、「インカレ参加者数で決める意味が分からない。加盟登録数で決める方が公平」(お茶の水女子大)という意見があった。ただ、学連に加盟登録しているだけの人がいるので、実際にインカレに出た人数で見た方が公平であり、加盟登録数で決めるのは不公平だと思う。他の幹事はどう考えるだろうか。 →特に異論は出されず、この方針を総会で説明することとなった。</p>
宇井	<p>また、「エリート人数を日本学連加盟員の人数に応じて柔軟に変更できるようにすることを提案する」(千葉大)という意見もあったが、1年ごとにそれを変えては切りがない。ただ、5年・10年という長いスパンで見ると、加盟員の増加によって「エリートになるのが厳しすぎる」とみんなが感じるようになったのならば、その時に意見が出るだろうから、加盟員で議論して決めればよいと思う。 あと、「男子を60人にする理由付けをしたい、ロング女子を30人にしたい」(筑波大)という意見が出された。今回の幹事会案は、ロングの人数に合わせているという側面がある。「男子60人という数字をロングに合わせてのならば、女子も合わせたらどうか」ということだと思う。ただ、ロングの女子の人数については、今ここで変えるわけにはいかないの、来年度以降に議論してほしい。</p>
佐藤 宇井	<p>エリート人数の変更には、加盟校から意見を集めるために、アンケートを取る必要がある。 ただ、「女子選手権はロングよりミドルの方が出走するのにハードルが高い」というのは、もしかしたらみんな感じていることなのかもしれない。</p>
宇井	<p>あと、東大が意見をまとめて提出している。大体が反対意見である。 (1)「一般クラスの人数を増やすほうが運営者としては負担であると運営者から聞いたことがある。現在加盟員数が増加傾向にある中で一般クラス出場人数を増やすことについてはどうなのか？」</p>
宇井	<p>一般クラスの数が増えた方が負担なのだろうか。</p>
野本	<p>一概には言えない。</p>
宇井	<p>一般の部の出走者数が増えることは、もちろん運営の負担が増えるが、それによって、「Aエリートの演出が大変になる」という話にはならないと思う。</p>
大久保	<p>(2)「廃止反対派の理由が弱い」という意見は不当では。制度を改正するほうがより説得性のある論拠を示すべきである。今の論拠ではそこまでして変える必要がないように思える。</p>
	<p>ミーティングで、大学としての意見をまとめたが、そのとき私は欠席していたので、その意図はよくわからないが、おそらくその場の雰囲気として、「幹事会案は、言っていることを裏返しにただけでほとんど変わっていない」という受け取り方をしている人が多かったのだろう。言い換えれば、「賛成意見の理由を少し変えたら反対派の理由になる」という風に受け取ったんだと思う。</p>
宇井	<p>制度を変える以上、誰かが言いださなくてはならないので、幹事会が意見を出している。反対意見がいろいろあるが、今のところ廃止に賛成している大学が多い。</p>
杉村	<p>(廃止反対派の理由が弱いからと言って)廃止賛成派の理由が強いというわけではないと思う。「理由が弱い」というのは、結局のところどちらにも言えることなのではないだろうか。</p>
宇井	<p>あくまでも個人の意見なので、どうしようもない。</p>
新粥	<p>千葉大でも話し合っていたが、「賛成派も反対派もその理由が弱く、『Bの結果がAに反映される』というところぐらいしか論点が具体的に見えなかったので、Bエリートの在り方に問題があるというならば、それを完全に取っ払ってしまうために、名前だけ変えてしまえばいいだろう」という結論になった。</p>

宇井 京都大も福島大も、おそらくそのような議論になったのだろう。

五味 東京大の「意見が弱い」というのは、議事録などを見てそう言っているのだろうか。

大久保 大学内での議論を見てみると、以前大西・技術委員長が作成した資料を読んで、「積極的に廃止する理由はないではないだろうか」という雰囲気だと思う。

宇井 「反対派の理由が弱い」という表現が、「Bエリートが無理矢理廃止に持ち込もうとしている」ように見えたのだろう。

五味 「Bエリートの結果次第で学連枠が左右されるのは本質的でない」ということをみんな強く感じていて、賛同すると思う。しかし、それを除いたときに、Bエリートを廃止する理由をちゃんと提示できないと、反対派を含めてみんなが納得できないと思う。幹事会の意見に対する反対意見を、「正当な理由がない」として幹事会が否定しても、反対派の人を納得させられない。幹事会として、枠以外の部分で、Bエリートを廃止する理由をひとつ明確に出せた方が、総会の中では加盟校に納得してもらえらると思う。

佐藤 「枠に影響しなかったら、Bが存在する意味がない」という話だと思う。ただ、それが伝わっていないのだと思う。

宇井 今までの意見だとそのようになる。

五味 Bを残したい、一般上位クラスを残したい人の気持ちは、「枠を獲れなくてもいいから、セレクションがあっては入れるクラスがあるのがモチベーションになる」ということだろう。それを主観的におかしいと否定するのではなく、きちんと否定する理由を示したい。

宇井 モチベーションの話だからすごく難しいところではある。

佐藤 しかし、モチベーションは与えられた枠組みの中で考えるべきだと思う。

五味 なぜ一般の部を走る人にモチベーションがない、という話になるのかわからない。一般クラスを走る人にモチベーションがないというわけではないと思う。

佐藤 私はそう思うが、そう思わない人が一部いるということなのだろう。

糸井川 ロングではエリートクラスは1つしかないのだから、当たり前な話だと思う。

新粥 インカレ本番というよりはセレクションへのモチベーションの問題だと思う。

糸井川 それは誰でも上がると思う。

佐藤 エリートに通る人数を増やせば関係ないのではないだろうか。

宇井 Bエリート下位のレベルにいる人たちが、Bエリート廃止の影響を受けることになってくるのだと思う。

佐藤 それはたまたま今までBエリートがあったからだと思う。

大久保 今回のBエリートは結局何なのかよくわからない。

五味 ちなみに今年走った人については枠はとれないのだろうか。

佐藤 規約は改正されていないので、枠はとれる。

杉村 Bエリートの入賞者の位置づけ、意味づけはどうなっているのだろうか。例えば、Aエリートで優勝すれば、選手権者となるが、Bで優勝してもB選手権者と言われるわけではない。Bエリートの入賞者に対して意味づけを与えようとしても、結局そこまでないと思う。

大久保 一般クラスと変わっていない。

宇井 Bエリートの入賞者に対して意味づけを与えると、一般クラスにも意味づけがよくわからないものになってしまう。それぞれのクラスで1位を決めるために、それぞれの立場で頑張ってもらいたいと思う。

五味 セレクションとしての意味を除いたとき、Bエリートというのはよくわからない存在なのだとすれば、セレクションでのモチベーションのために、そのためのクラスを本番であるインカレに設置するのは、どう考えてもおかしいと思う。セレクションや1年生の成長など、Aエリートになれないレベル人のモチベーションは、別のところで自分で見つけてほしいと思う。

佐藤 みんながその精神であればいいのだが、それで納得できない人がいるからこういう議論になっているのだと思う。

宇井 しかしそう説明するし、それ以上はないと思う。

野本 むしろ、一般クラスのAとBをちゃんとすみわけした方がいいと思う。女子のAでは、易しすぎるというクレームが出ている。実力的にはAエリートの人でも、セレクションに出られなかった時点で、つまらないコースを走らなければならないことになる。「Bに出る人が少なく、Aの出走者がまとまって帰ってこられるように、易しくせざるを得ない」という話を聞いたことがある。

佐藤 Bに出る人はほとんどいない。男子・女子で10人程度である。

大久保 (現状)「競技を全くしていない人が、インカレで半年ぶりに出るときにエントリーするクラス」というような位置づけになっている。

五味 むしろ、AやBに出る人の目安があって、Aに出る人が決められるのであれば、Aのレベルが上がり、その中での競争がBエリートのレベルに近づくことで、モチベーションについては改善できると思う。

杉村 (インカレの要項では)Aは上級者、Bは中級者となっている。これらの位置づけについて、もう一度考えなくてはいけないのではないだろうか。

田中(基) 関東学連内では、「セレクションの出場者が多いので、そういったすみわけをきちんとしよう」という話題を私が持ち出したのだが、「意識の格差を生むからよくない」として反対された。

村瀬 それによってインカレ出場者がAとBに分かれるのかどうか、よくわからなかった。どうすれば分かれるのだろうか。

杉村 自分の主観で判断していいのだろうか、という迷いもあるのではないだろうか。

新粥 設ける基準としては、セレクションの半分以上で入っていないとAに出られないといった感じだろう

大久保 しかし、それでは事実上のセレクションとなる。

野本 あくまでも目安程度にした方がよいだろう。

杉村 しかし、基準はあってもいいのではないだろうか。

五味	(一般クラスに出場する人には)もし走りきれない人がAに多く走った場合、コース全体の質が下がり、全体に迷惑が掛かってしまうことを理解してもらえばいいのだろう。
宇井	Bのレベルはどんなものだろうか。
佐藤	中級者となっているが、(実質)初級者だと思う。
大久保	プログラムのコースデータを見る限り、コース自体のレベルはFクラスと変わらなかった。
宇井	MUB, WUBの位置づけをはっきりさせておくべきなのだろう。
佐藤	せっかくあるのだから有効活用すべきだと思う。Aはある程度オリエンテーリングをやっている人が走った方がいいだろう。
杉村	Bの表彰はあんまり盛り上がらない。人数がそれなりに増え、競えるクラスになれば、表彰式で盛り上がるのではないだろうか。
佐藤	みんなAを走るから自分もAを走るという人は多くいると思う。もう少し各大学で頑張ってもらって、Bの人数を増やすべきなのかもしれない。
宇井	普段競技を全然していない人や、インカレぐらいしか出ていなくて自信なさそうな人にはBを走ってもらえばいいのではないだろうか。
大久保	あるいは、一般の部の難易度を一度上げて、「Aは難しい」という印象を与えておいて、Bを増やしてもいいのではないだろうか。
五味	各学連のセレクションで走りきれない人やタイムオーバーする人をBにするなど、明確な基準を示したガイドラインを作ったらどうだろうか。今のところ、去年のインカレミドルの一般の部のタイムを見ると、トップが22分程度、一番遅い人でも1時間くらいである。
宇井	ただ、一般クラスで実力を試したい人の意欲を妨げるべきではないと思う。「走りきれない自信はないが、みんながMUAにエントリーするので自分もそうする」というのならば、ガイドラインを設けて、MUBの(「中級者向け」だという)位置づけを確認しておく、(状況が)変わってくるのだろう。
大久保	しかしここで変えないと、来年度変えることはできないだろう。
宇井	ただ、いきなりこの案を出しても、渉外としては、大学に持ち帰って話し合いたいだろう。
五味	これはいつまでに変えなければいけないのだろうか。来年度のインカレロングの総会で可決すればよいだろうか。そもそもガイドラインは可決する必要があるのだろうか。ガイドラインの制定がセレクションやインカレエントリーに間に合えばよいだろう。
宇井	これについては、幹事会での意見を1度各大学へ周知し、また意見をもらって、それから考えていけばいいのだろうと思う。
宇井	(3)「Bエリートが増えてから学生オリエンティアが増えてきた。相関がないとは言えない。」
糸井川	何とも言えないだろう。
宇井	これについては、そう断定できないと思う。
宇井	(4)「Bエリートを目標にしている人もいる。そういう層の受け皿が確保されていない。」
宇井	以前から言っている通り、すべてを受け止められるわけではないが、Aの枠を増やす。あとは、それぞれのクラスでモチベーションを保って頑張ってもらいたい。
宇井	(5)「BエリートによってAエリートの学連枠が大きく左右されるのはおかしいので、その部分だけを変えれば良い。Bエリートを廃止する理由にはならない。」
宇井	さっき議論した通りである。
野本	(6)「突然なくすような議論をしているから反対意見が多くなっているという側面もあるように感じる。「〇年後に廃止する」という風にすれば学生としても心構えができ、反発が緩和するのでは。」
五味	そもそもBエリートは移行措置である。
宇井	なぜ、何年後かに受け入れられるものが、今受け入れられないのだろうか。きちんとした理由がなく、主観的な意見だと思う。
宇井	これについては、いつ廃止するかという問題ではないと思う。
宇井	(7)「競技者としてはインカレであってもなるべく自分に合ったレベルのコースを走りたい。Bエリートを廃止すると実質的にレベル別クラスが1つ減るのでBエリートがあったほうが1人の参加者としてありがたい。」
宇井	これについては、一般クラスのすみわけをもう一度見直せばいいと思う。
杉村	昨年度・今年度は別として、もともとAエリートとBエリートは同じコースだったから、レベルに差はない。
宇井	(8)「将来的にAエリートを目指す人にとって、Bエリートはステップアップのための良い目標となっている。廃止すべきでない。」
佐藤	これについても、Bエリートがなくても関係ない。結局トップまであと何人だったかが問題である。
宇井	一般クラス優勝でも、Aエリートの1つ下のクラスで優勝したという、十分な事実になる。これもどちらかという、本番というよりセレクションの話である。
宇井	(9)「決め方が強引である。内容云々以前にこのような独断的な決定方法に不信感がある。」
大久保	一応各大学の大学を集め、幹事会で議論してまたフィードバックして、というのを重ねてきた。
宇井	どちらかという、幹事会というより、大西・技術委員長がこの議論のきっかけを突然つくったことに対する反発だろう。3年生が言っているとは限らない。
宇井	これについては、仕方ない。

宇井 宇井	(10)「賛成意見の論拠が強く、反対意見の論拠が弱いというのは腑に落ちない。」 何とも言えない。大西さんの作成資料に反発している面が大きい。
野本 五味 野本	(11)「Aエリートの人数が多くなると『学生日本一を決めるのに沿わなくなる』というのがわからない。」 幹事会案を読み違えていると思う。 選手権の部とAエリートが違うと言えばいいのだろう。 いや、おそらく、Aエリートの人数について議論したとき、「一番大事なのは学生日本一を決めることだ」と話していたのを読み違えているのであり、「沿わなくなる」とは言っていない。
宇井	(12)「正確に言えば男女の参加者数比は2:1ではない(約2.3:1)。エリートの人数比60:30は少なくとも男女のインカレ参加人数比を理由にはできない。」 男女比2:1というのは、あくまでも目安である。正確ではないが、人数を決める際の参考にしたものである。
宇井	幹事会案に対する反対意見を出したのは、他には、お茶の水女子大、福島大である。 お茶の水女子大は、「多様な参加者がそれぞれの楽しみ方をしたいから、レベル別のクラスを減らすべきではない」すなわち、「Aエリート、Bエリート、一般があるから、参加者がそれぞれのレベルに合わせて楽しめるのがよいのだから、「インカレ=学生日本一を決める大会」というコンセプトにするのはよくない」と書いてあるが、幹事会として、インカレをそのような場として考えているのではない。 あくまでも選手権に注目すると、それは学生日本一を決めるためのものというだけのことであって、一般でも上級と中級に分ければ、現状が改善されると思う。これは来年度以降の課題となるだろう。
宇井	福島大の意見では、「③、④に対して、Aエリートの枠を増やしたとして、Bエリートの上位層の選手が出場したとしてもBエリートの上位層の選手が入賞できるとは考えられない。よって、Aエリートの枠を増やす必要性を感じられない。また、Bエリートの上位層の選手は、Aエリートのクラスで出走するよりもBエリートのクラスでの出走のほうが次年度の意欲が増すように感じる」としている。
佐藤	そうだろうか。
田中(基)	一般の部ではモチベーションが上がらないのだろうか、という話になる。
宇井	どういう意図なのかよくわからないが、一般の優勝を目指すのとは少し違う。 また、「演出が一般クラス同等の選手権B」というようには感じない。運営側の視点に立つとそうかもしれないが、Aエリートに漏れてしまったがある程度の競技力を持つ者のみしか参加できないBエリートと、セクションでどんなに遅いタイムの人でも参加できる一般クラスでは次元が違う。現状のインカレでもスタート地区の隔離やコースの難易度から演出の違いを感じる。」としている。
田中(基)	演出の話ではない。
宇井	何度も出ている話であるが、これは一般クラスのすみわけの話につながってくると思う。 また、「⑤」に対し、女子エリート数は必ずしも人数比で決めるべきではない。男子と女子の競技レベルが同じならば人数比で決定してもいいが、同じようには感じられず、女子のエリートの数居は現在男子よりも低いように感じているためである。」とある。
五味	「男子エリートより女子エリートの方がハードルが低いので門戸を狭めてほしい」ということだろうか。
大久保	北東学連は女子エリートのハードルが低いのだろうか。
宇井	みんなそう感じてはいないと思う。 さらに、「ロング、ミドルともに選手権クラスへの出場が現状難しい大学にとってBエリートがインカレ優勝という目標の段階的目標の第1歩であり、Bエリート出場の実験が次年度の競技への自信に繋がる。そして、Bエリートでの経験を部員に伝えることで更なる部の競技力向上にも繋がる。」と書いている。
田中(基)	私は今年2度目のBエリートを走るが、そんなことを思ったことはない。
宇井	まず一般クラスの優勝を目指せばよいのではないだろうか。
大久保	価値観の問題ではないだろうか。
五味	Aエリートだけになったら、学校枠はあるのだろうか。
佐藤	現状、ロングにはないので、ミドルについても学校枠は無くなるだろう。
五味	他の大学も含めて思ったのだが、「Aエリートに出る人がいない大学は、Aエリートだけになったら、インカレで選手権に出る人がいない状態でインカレに来ることになり、モチベーションが下がる」ということを言いたいのだろう。
大久保	ただ、ロングエリートのない大学はいくつかある。
宇井	エリートというのは、そもそも学校枠で出るためにあるわけではなく、頑張っ努力してオリエンテeringがうまくなって、セクションで結果を出した人が走れるから意味があるのだと思う。 あと、「学校枠として1名、廃止後の選手権にはミドル・ロングともにオープン参加をさせてほしい。」という。
佐藤	結果はともかく、選手権を走らせてほしいということだろうか。
野本	学校枠とは言わなくても、選手権クラスを走らせてほしいということだろう。
佐藤	インカレの併設大会ではチャレンジクラスはあるものの、そこでは学生は走ることができない。
高橋	併設大会は加盟員以外が出るための大会である。
宇井	今のルールでは厳しい。大学内で1人だけエリートになれるわけではなく、学連内のある順位以内に入れば、エリートを走ることができるので、頑張っほしい、としか言えない。

五味	エリートを出すのが難しい大学は、エリート経験のある人がいなくなったら、学ぶ経験もなくなってしまふ、ということだろうか。
糸井川	そういうときこそ地区学連の出番だろう。
五味	選手権クラスの難しいコースはインカレだけではない。公認大会のAクラスなどでたくさん経験を積み、オリエンテーリングの魅力は伝えられると思う。学連合宿で選手権の魅力を伝えればいいのではないだろうか。
宇井	そういうこととしたい。
佐藤	オープン参加は厳しいだろう。刺激を受けるためには、ぜひ学連合宿などに出てほしい。
宇井	議論はここまでとしたい。
佐藤	まとめると、「一般クラスのすみわけをもっと行う」、すなわち「Bクラスの参加者を増やす」ということでいいだろうか。
宇井	一般クラスのAとBの存在意義を明確にしたい。
佐藤	一般クラスをちょっと難しく、上級者クラスを作ってくれるよう、実行委員会の方に伝えればよいだろう。
宇井	総会ではそのように伝えたいと思う。

2.大学院生の加盟登録について	
	すでに幹事会で決定された、「大学3・4年生に相当する専攻科学生を認め、聴講生・研究生・留学生の加盟は認めない。また大学院生の加盟も認めない」とする方針についての、加盟校からのアンケート結果について確認した。その結果、これまで通りの幹事会の方針を維持し、総会での承認を目指すこととなった。
佐藤	<p>今までの流れを整理すると、幹事会としては、「大学3・4年生に相当する専攻科学生を認め、聴講生・研究生・留学生の加盟は認めない。また大学院生の加盟も認めない」。という方向であった。現在の規約では、加盟登録については年数の制限がなく、選手権クラスに出場できるのは加盟4年以内に限っている。</p> <p>これまで幹事会では、新たに認められた加盟員が、学生チャンピオンになった場合を考えてどうすればよいか考えて、加盟を認めるかどうか決めた。幹事会では各大学はどのような意見を持っているのか集めよう、という話で前々回は終わった。</p> <p>その反応としては、次の通りであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻科学生については、加盟を反対する大学はなかった。 ・加盟登録を4年以内とするべきだ。(東北大・東工大) ・聴講生・研究生については、反対する大学が多数だった。岩手大は「認める」とした。 ・大学院生については、加盟4年以内ならば認める:8校、一般クラスのみ出場が可能:4校、認めない:7校となった。 <p>今回の幹事会である程度話し合っておきたいのは、加盟登録年数の問題と、大学院生の加盟をどう扱うかである。</p> <p>すべての大学がアンケートに回答したわけではないが、(大学院生の加盟登録については)意見が割れている。なぜ、加盟登録は4年以内ではないのだろうか。4年以内なら認めてもよいというところが多かった。(東北、筑波、実践、岩手県立、岩手、北海道、宮城学院女子、相模女子)理由を見ると、加盟4年以内ならば抵抗を感じないという大学が多かった。</p> <p>予想していたより、大学院生の加盟登録を認めてよいという大学が多かった。幹事会としては、意見の方向性は変わらないだろうか。</p>
新粥	千葉の中では、大学卒業後、別の大学の大学院に進学した場合の扱いを決まらないとどうしようもない。
野本	その場合は、所属が変わるだろう。
佐藤	その人が所属している大学で決まる。
新粥	例えば、それは東大としての所属になるだろうか、それとも東大大学院としての所属になるのだろうか。そこを具体的に決めてもらわないとどうしようもないというか、複雑になるのならば、よくないという意見が多かったように感じる。
野本	それは、前言った通り、議論の余地がある。
佐藤	加盟を認める場合は、大学としての所属にするか、大学院としての所属にするか、また、選手権リレーはどうするのか決める必要がある。ただ、このあたりの議論が伝わっていないような気がする。
高橋	あまり目立たない議論だったかもしれない。これまでの議論は、基本的に加盟を認めるかどうかの話であった。
野本	後回しにされていた。
野本	ただ、大学院大学が存在しており、その扱いについて決める必要があるというのをロング前日の総会で話したと思う。
新粥	そこまで具体案をつくってから、その扱いを決めるかどうか、という話だった。
松浦	学連登録4年以内というのは、初年度から4年以内だろうか、それとも留学した場合はどうなるのか。
野本	初年度からである。
松浦	連続4年ということか。
佐藤	そうである。
五味	議論の進め方として、先に可決された時の設定を決めておかなければいけないだろうか。
佐藤	そういうことだ。
五味	ただ、リレーの扱いなど具体的な案が見えないと賛成・反対ができないだろうか。
新粥	賛成・反対ができないというよりは、具体案を先に出すべきという話だと思う。
野本	それで何が変わるだろうか。
新粥	例えば、東北大でAエリートを走っていた選手が、東大大学院に進学したとき、その選手が東大としてリレーのエリートを走るの納得はいかないということである。
野本	そうでなければ、納得がいくということだろうか。
新粥	東大大学院は大学院としてチームを組むように規定すれば、納得がいくかもしれないと思う。
野本	大学院大学が存在する以上、そのようになると思う。
新粥	幹事会としての案を出してほしいとのことだった。
佐藤	出してほしいと言われた以上、出しておこうか。
	大学院は大学院として別に考えるべきだろうか、それとも大学と一緒に考えるべきだろうか。
	→大学と一緒に考えるべき:0人
新粥	そうすると大学院生は人数が集まらず、リレーに出られないだろうという話があった。

野本 その可能性は高いと言える。

佐藤 努力次第でないだろうか。

新粥 結論が出たからと言って、どっちかというわけでないが。

佐藤 もし認めた場合、大学院と大学は分けるという考えでよいだろうか。

宇井 それをわかったうえで意見を出したのかも分からない。考慮していない場合も考えられる。

佐藤 これで意見が変わるのだろうか。話し合ってきたらどうか。

五味 単純に、加盟員に大学院生を含めるべきかどうかという本質的な問題は、大学と大学院が分かれるかという実質的な部分と関わらないのではないだろうか。

佐藤 関わらないと思っていたら、それによって意見が変わってくるかもしれない。

新粥 インカレを目指さないのならば、加盟する意味がないという話になる。JOAにさえ登録しておけば、全日本に出られる。

佐藤 インカレに出るために、加盟登録しているのである。

大久保 加盟が認められた場合、大した話ではないわけではないが、改めて意見を集めるのは大変である。

五味 また臨時総会とかになる。

でも認められた場合は、選手権4年以内という縛りが変わるのだろうか。そのままだったら、どういうことなのだろう、という話になる。日本学連の加盟員に大学院生を加えるのならば、大学生としての意義のある数字としての4年は、根拠がなくなる気がする。

佐藤 そういうのを撤廃していくべきだと思う。

五味 そうすると、大学1年生も大学院生も同じ場で戦うことになる。

野本 私の感覚として、撤廃してもいいと思うが、みんなの感覚として4年以内という意見が強かったため、4年とした。議論の余地があると思うし、そういう意見が出てくるのは自然な流れだと思う。特に積極的に撤廃しようという意見がなければ、4年なのだと思う。

佐藤 4年というものを気にしている大学が多い。大学院を認めるというのも、大学2・3年から始めて、オリエンテーリングの年数が大学1年生から始めた人と同じくらいの年数の人ならばいいのでは、くらの感覚だと思う。

野本 門戸を狭めすぎず、広げすぎない程度の落としどころが4年という年数なのだろう。

五味 4年というスパンがみんないいと感じているのだと思う。

佐藤 長い年数、4年でやってきているから、ここでスパッと増やすというのも、気持ちが複雑になるだろう。

宇井 このままでは総会での議論がまとまらない。どこから議論を始めていいのかわからない。

山川 具体的に問題が発生したときに議論してはだめなのだろうか。即対応するとか。

大久保 すでに岩大の大学院生の話が出た。あれは、地区学連がしっかりしろという話になる。

佐藤 一般クラスへの出場が可能というのも中途半端だと思う。

杉村 一般クラスについては加盟登録と論点がずれていないだろうか。加盟登録と関係ないと思う。

五味 本質的な案ではない。大学院生を認める大学のその理由は何だろうか。

佐藤 4年以内だったら不公平感がない、という人が多い。

野本 どちらかというと逆に、認めない理由がないのだろう。

五味 逆に、大学院生を認めないという意見では、大学生と大学院生は違い、日本学連は学生のための組織であるということだろう。

野本 抵抗があるのだろう。

五味 論点としては、年数というところの公平感に問題を置くか、大学生と大学院生を区別するところを基準に置くかである。

野本 順番的には、日本学連が大学院生を認めるかどうかを決めてからの議論だと思う。

佐藤 しばらくは、大学生のための学連であったが、それに大学院生を入れるべきかどうかという話であ

宇井 4年であれば、大学院生もOKということは、大きく見れば、加盟員に大学院生を含めるということになる。

五味 個人的には、日本学連が大学院生を含めた機関なのであれば、大学院生も選手権クラスも走れるようにすべきだと思う。4年以内ならば、選手権クラスを走れるという規定はなくなるはずである。

佐藤 学生の中に大学院生がいるのであれば、4年以内だろうと関係ないという話になる。

五味 その方が筋が通っているというか、4年という根拠がないから、フィットしているという主観的な理由以外としてあげることができる。

佐藤 だからこそ、幹事会では大学院生の加盟を認めない方針であった。

五味 学生という言葉が、大学生を指すのか、大学院生を含めた学生を意味するのか理由などない、という感じになる。

大久保 解釈の問題ということになる。

佐藤 4年以内なら認めると言っているのだから、その解釈が半々だというわけではないだろう。また総会で問題提起してみようか。

宇井 何が議論の中心になっているのかわからなくなってきた。

佐藤 ここまで来たら、学生に大学院生を入れるかどうかである。それを再認識してもらおう。

杉村 そのためには、4年とかは関係ない話である。要点をきちんと伝えないとイケない。

佐藤 日本学連に入るのは大学生だけなのか、それとも陸上のように大学院生も入るのか、という話になるだろう。

宇井 そこから話を始めないと、そのように考えている大学がないと思う。

佐藤 今の涉外は言えないと思う。自分の意見が大学の意見になるので、言えないとか話し合わなければいけないというだろう。総会で話し合うのは無理だと思う。意見を言いにくいだろう。

宇井 来年度に持ち越さなくてははいけないだろうか。

佐藤 そうなると、このままの規約になるだろう。まずは専攻科学生や聴講生の扱いについて総会で定めればいだろうか。

宇井 それらの扱いは、大学院生を学生の中に入れるか否かに影響を受けない。

佐藤 それをもう1回考えてきてもらうしかないだろうか。大学院生を学生の中に入れるかどうかの解釈を大学として決めてきてもらいたいという話になるだろう。日本学連の中の選手権であるから、それよりもまずは、加盟を認めるかどうかの問題である。

野本 それだけなら総会で決められるのではないだろうか。

佐藤 渉外が意見を言いづらいのではないだろうか。

五味 今メーリスでそれについて伝えれば、総会で議論が出来るのではないだろうか。全大学が大学ごとにいるわけだから。

佐藤 夜のミーティングで話し合ってもらおうか。時間を使わして申し訳ないが、メーリスを流してしまおうか。

野本 一般クラスなら認めるという大学については、大学院生の加盟を認めるという話になるのではないだろうか。そういう風に考えてきているのではないだろうか。

五味 でも、一般クラスには出てもいいが、選手権はだめとなっていることになるはずである。

野本 加盟登録はできるが、選手権資格はないとしたいということになる。

五味 ただ、加盟登録はできるが、選手権に出られないというのは謎である。どういう意図で認めているのか、本質的には完全な加盟員ではないと考えて、そう言っているのだろうか。普通の加盟員ならば、選手権に出る権利はあるはずである。

高橋 準加盟員のようなものだろうか。

佐藤 そういう意見を出している大学が結構いる。「選手権クラスには出られなくてもいいから、一般クラスに出たい」という人もいる。

野本 そういう人がいないということはないだろう。

佐藤 ただ、(併設大会には)チャレンジクラスがある。

野本 大学単位で行動したいのではないだろうか。大学院に入ってから誘われて、やってみただ、一人でチャレンジクラスに出たくないという人もいよう。そういうパターンは想像するだけいろいろ考えることができる。どれだけいるかは別として

佐藤 今メーリスを流してしまおう。

松浦 4年以内というのをなくして、大学院生の加盟登録を認めた場合、インカレに5回出られるということになるだろうか。

佐藤 そういうことになる。大学にいる限り10年でも出られることになるだろう。

野本 いろんなパターンが考えられる。大学生なら4回まで、大学院生ならリセットされて2回まで出られる、とか。きりがいい。箱根では4・2だと思ふ。

五味 大学生でも大学2回目の人が選手権を走れないのは、4年という縛りがあるからならば、その意味をくっつけている意味は、大学生だから、というのをそのまま受け取っているからではなく、大学生の中でも4年以上だからと考えているということになる。

宇井 大学生だから認めるというよりは、始めてから4年だから、ということである。

五味 選手権に4年という縛りが存在している理由を考えると、単純に大学生だからという理由で認められているわけではないので、大学院生についても(加盟が認められた場合でも)いくらでも(選手権に)出られるということにはならない可能性がある。今話しになったように、手段があれば、いくらでもインカレに出られるわけではないことを一言あった方がよいと思う。

佐藤 学生に大学院生を含めたら、今の規約を踏まえると、加盟登録はできるが、選手権は出られないということになる。

五味 今、選手権は4年と決まっている理由は、公平性を保つためだろうか。

野本 そうだと思う。心理的に公平性を保つ。

宇井 (議論の)順番として、大学院生の加盟を認めるか認めないかということから始まると思うが、それが、大学院生が選手権を走れるかどうかで意見が変わるとしたら、すぐに決めるのは難しいだろう。

五味 千葉大のように、具体的なビジョンが見えないと賛否が決められないという話に戻ってしまう。

新粥 ビジョンが見えないから、千葉大は幹事会案に賛成するという結論になっている。

佐藤 29歳まで加盟ができるから、もし4年がなくなっても、2回入り直すことはできないということになる。

野本 (そういうパターンが)ないとは言えない。

佐藤 話を戻すと、院生を学生に含めていいのか聞き、含めてよければ、(選手権出場などの扱いについて)また考えることにしたい。

松浦 阪大としては、2回生から始めたという特別な理由があれば大学院生の加盟を認めよう、というような意見だと思う。その場合、大学院生の加盟登録を全員認めるとする意見が来た時、どのような返答すればいいのだろうか。

佐藤 他もそうだと思う。

野本 賛成でいいのではないだろうか。その中で選手権の参加資格をどういう基準にするかという、次の話になるだろう。

佐藤 まずその話になるだろう。その例を挙げておいた方がいいだろう。

野本 仮に2年から始めた人でもいいとした場合でも、M2で一般クラスに出るのは許されるということになるだろうか。加盟登録5年目で一般クラスに出ることはあり得るのが現状である。

佐藤 選手権クラスに出られるのは4年以内だが、一般クラスにはそういう制限がない。そのため、学連登録5年目で一般クラスに出場するのは可能である。やっている人を見たことはないが。

野本 五味	だから、2年から始めた場合は、大学院生の加盟を認めるということでもいいと思う。 新たな学生という意味に大学院生を含めるのならば、(加盟登録)4年目というのは考える必要はないということになるだろうか。
野本	それは次の話になる。
佐藤 五味	選手権の出場資格をどうするか、制限を加えるべきか、東大が言っていた。 大学院生の加盟の是非についての意見をただ聞くのではなく、これからの展望というか、論点がどのように進んでいくのか(メーリスに)書いていた方がよいかもしれない。
佐藤	内容を考えて、幹事会終了後にメーリスを流したい。

3.会計について	
<p>大久保より、今年度会計中間報告と来年度予算案について、報告があった。また、山川より、今年度の地図販売売上について最終報告があった。</p>	
<p>(5日)</p> <p>【今年度会計中間報告】</p>	
大久保	山川さんに支払うお金についてはどうすればよいだろうか。
山川	YMOE社の決算の都合があり、いったん破棄してほしい。書類を出し直す。事務局のこともあるが、3月は忙しいので、それを含めて4月に東京できちんと整理させてほしい。
大久保	現時点では、今年度150万円の黒字となっている。昨年度の黒字返金が大きいのと、交通費を除くとほとんど使われておらず、使う金額が増える要素がないというのが大きい。経費の無駄になっているのは、電話代・水道代である。電話代だけで年間5万円を超えている。
佐藤	総会までには資料を出せるのだろうか。
大久保	時間があるので、大丈夫だと思う。
平野	会場は押さえてあるので、後夜祭前にも幹事会を開催することは可能である。
山川	会計関係について議論するために、後夜祭前に幹事会を行うことにしたらどうだろうか。
宇井	そのようにしたい。
<p>【来年度予算案】</p>	
山川	地図売上の年間報告が出来上がった。今年は7764枚となり、筑波大学大会の支出分は402枚であった。総売り上げは169万円3500円となり、筑波大大会へ投下した金額を上回る結果となった。大した赤字ではないし、(現状として)有効活用と言いながら、黒字を増やす事業となっている。
大久保	確認だが、事務局の家賃は月5万円×12か月分+維持費(家賃1か月分)という計算でよいだろうか。
山川	それでよい。ただ、返上する事態になるかもしれない。だれが住むかわからない。
山川	今年度ジェネシスマッピング社の赤字をすべて解消したため、会計事情が変わった。
大久保	いずれにせよ、東大大会前にすべてやろう。
山川	日光に山川ハウスを作る構想も具体的に始動する。学連資材が分散して保管されている現状を解消し、それらのきちんとした置き場所を決めたい。
山川	今年度は地図売上枚数は7764枚であった。新機軸事業は今年度については、筑波大大会(矢板山苗代)の1件のみであった。
山川	なお、第4弾の申し出が出てきてので、2016年度の矢板インカレに先駆けて、事業着手したい。
<p>(8日)</p> <p>【今年度会計中間報告】</p>	
大久保	(例年と比べて)加盟金や事業収入として、黒字返金が多かった。技術委員会の支出が0となっているが、これから精算することだ。また、幹事会については、交通費で見精算分があるようなので、金額が増える見込みだ。
大久保	地図関係のところ、昨年度の精算分の金額があるが、毘沙門山・矢板山田のプロジェクトで精算が終わっていなかったものと、日本学連事務局家賃を合わせて精算したものをばらして書いたものだ。中間報告なので、最終的には、6月幹事会と10月総会で今年度決算として出すことになる。
野本	家賃は毎年契約が更新されるものだっただろうか。
大久保	詳しくはわからない。山川さんに確認したい。
佐藤	13か月分と言っていた。
<p>【来年度予算案】</p>	
大久保	今年度予算からの変更点はいくつかある。賛助金は今年度20万円が計上されていたが、実際は10万円に届かなかったのので、来年度予算案では10万円とした。また、インカレ黒字返金については、昨年度90万円だったが、予算では10万円だったので、間を取って50万円とした。
大久保	支出項目では、普及部は減らした。ユニバー補助は、2年で30万円だったので、単年度では15万円を計上した。
大久保	光熱費と電話代は、これまでまとめて10万円と計上していたが、通帳などでは、分かれているので、整理しやすいように、水道・電気代と電話代に分けた。いずれは解約されることになっているのでどのくらいかかるかわからないが、若干減らした。
大久保	今年度と違うのは、JOAの加盟金は来年度かかからないので、50万円というのがなくなっている。
大久保	あと、収入に対して支出がとても少ないので、予備費が大量に計上されている。
高橋	今年度からいぶきの印刷を始めたので、予算を1万円まで増額したい。
宇井	今年普及部は経費が掛かっていないのだろうか。
杉村	今年は何もかかかっていない。インカレ観戦ガイドを紙で印刷した場合、経費が掛かるかもしれないが、それは来年度に任せたい。
大久保	今年度は例年より幹事会を1回多く開催したり、1度やむを得ずリゾート地で開催したり、さらには次期幹事と呼んだりしたりしたため、幹事会の費用が多くかかった。来年度も幹事会開催にかかる経費が多くかかると見込まれるため、幹事会にかかる予算を今年度より増額した。
大久保	事務局の家賃は1年更新なのだろうか。
山川	1年ごとである。毎年13か月分かかる。

<p>山川</p> <p>大久保 山川 佐藤 山川</p>	<p>【地図売上報告】 木曜日に一通り説明したが、すべて数字できちんと説明したい。 今年度、7764枚の地図売上があり、そのうち筑波大大会の初出分として402枚あり、1枚当たり550円である。残りの地図は1枚150円であるので、売上の総額は169万3500円である。 支出の方では、筑波大大会での地図作成事業として160万円、日光トレインの改定作業として20万円かかっている。(改定の)対象になった大会は北東インカレ兼ロングセレ、インターハイ(個人戦・団体戦)、北東・関東合同ミドルセレである。予算はすべて使った。 矢板に関しては、矢板塩田は予算を使うことなくクローズになったので、計上していない。将来にわたって使う必要のあるトレインであることが確認できているので、ロングのためのクローズとなった。 来年度に関しては、新機軸事業の第4弾を予定している。日光・矢板トレインについては、要望があった時に対応できるように、予算を計上している。 4番目として、ここのところ、直前のインカレのために時間を使っているため、実行委員会の発足より先に地図作成をできるようにしたい。可能ならば、ロングを見越して、矢板塩田の改定作業を来年度中にある程度やってしまいたい。 数字的には、表紙にある通り、新機軸事業については4年前の日光和泉の買い取りに始まり、2013年度には、渉外とトレインを含めて、日光のトレインを財産として形成していこうとして新機軸事業を始めた。今年度は、愛知でインカレが開催されたため、学生の合宿が(愛知や日光に)分散したのと、新機軸事業が1件だけだったため、(昨年度より地図売り上げが減少したが、)そうはいっても、新機軸事業の投資金額を回収できるほどの売上となった。 それらの精算などの処理は、いつ行うことになるだろうか。 4月に行きたい。申し訳ないが、学連の仕事は3月はこれでおしまいにする。 第4弾を希望している大学は、今あるのか。 希望をしている大学はあるが、決定ではない。矢板インカレと地ならし渉外を行い、正式に実施する場合は、6月の幹事会で決済してもらいたい。</p>
<p>宇井</p> <p>山川 宇井</p> <p>山川 宇井 山川</p> <p>宇井 山川</p> <p>宇井 山川</p> <p>宇井 山川</p> <p>宇井 大久保</p> <p>野本 山川 宇井 山川</p> <p>宇井</p> <p>大久保</p>	<p>4.インカレスプリントについて</p> <hr/> <p>インカレスプリント開催に伴う、インカレ競技規則改正案、ガイドライン、競技者配分について、確認した。特に、1月の幹事会で指摘された部分の修正について、確認した。その結果、今回の幹事会で示された案を総会に提出することとなった。</p> <hr/> <p>今回の総会で、競技者数や選出方法について、決議を取りたい。 また、インカレ実施規則の改正についても、前回幹事会までに指摘された点については、大西さんが修正したので、この案を総会に出して、承認を取りたい。 スプリントのガイドラインについてだが、前回の幹事会で予算の点において、地図調査にかかる費用は25万円を上限とし、それ以上の場合は幹事会で説明が必要とすることを加えておいた。 あと、実行委員会の提案についての記述が出来上がっていない。 ここにはどのような内容を書くべきだろうか。 このあたりについては、結局春も秋も、水面下で動いている。ミドル・リレーは同じ書き方でよい。 規約には、(実行委員会の)立ち上げには承認が必要だということしか書かれていない。 実行委員会については理事会の承認が必要であるということになっている。同じ内容をガイドラインに加えればよいだろうか。 そのような感じでよい。(立ち上げに)理事会承認は必要である。 これについては、なくてもいいのだろうか。 形だけでも書いておかないと、体裁が整わないため、実行委員会という書き方にして、同じ書き方にすればよい。 これについても、加盟校からの意見はない。ガイドラインなので、反対などという問題ではない。 具体的に始まってからだと思う。始動させなければならない。 将来的には渉外的に開催環境は厳しいかもしれない。全日本スプリントでも厳しい。 対策を打ったものとしなければならないだろう。 これについては、このガイドラインを春から稼働させたい。 まずは5年間何が何でもやる、継続していくということで、幹事会との合意事項ということにしたい。 この議題も以上である。他にないだろうか。 インカレの規約改正について、東大から意見が寄せられている。 SIやEカード以外のパンチングシステムが登場してきたときにも対応できるようにすべき、だという意見だと思う。 IOFでも公式なパンチングシステムが新たに公認された。 バックアップ計時は意識の上では必須のものとしているが、規約に入っていないという指摘だろう パンチングシステムを確保することを規約に入れてほしいということだろうか。 それはもっともな意見である。ここ数年は運営者の意識の上では必須のものとしているが、規約に入っていないのならば、直すべきである。 現在の案では、「24.4 コントロール通過証明がされていない、あるいは判別できない場合、(ユニットの不調など競技者の過失でなくても)この競技者は失格となる。但し、バックアップにより通過が証明された場合は、失格とならない。」とある。 この文言では、バックアップシステムを置かなくてもよい、と解釈することができるだろう。</p>

山川 宇井	「追加のバックアップシステムを置かなくてはいけない」というようなことを書かなくてはいけない。その具体案については大西さんに任せてはどうだろうか。 それでは、加えるという前提で。総会での承認を取りたい。
5.学連30周年記念行事について	
日本学連が発足から30周年を迎えたことを記念して、記念行事の開催などについて議論しようとしたが、意見が出なかった。そのため、宇井がインカレでのあいさつで、学連が発足30周年を迎えたことについて触れることとした。	
宇井 佐藤 山川	この議題についてはどうすればよいのだろうか。 全く考えていない。 私もまったく頭が回っていない。40年目でやろうと思っていた。ちなみに、昨年12月で学連発足から30周年を迎えていた。いろんな資料が埋まっている。きちんとしたものは40周年でやることにしたらどうか。
宇井	まずは、30周年だということを、インカレのあいさつで触れたい。
6.後援申請	
日本学連へ後援申請のあった、インターハイ・東大OLK大会について、全会一致で後援を承認した。	
新粥	(1)第29回全日本高等学校・中学校オリエンテーリング選手権大会(インターハイ) 開催日:2015年9月19日(土)~21日(月・祝) 開催場所:駒ヶ根高原(長野県駒ヶ根市) →全会一致で後援が承認された。 (2)第37回東京大学オリエンテーリングクラブ大会 開催日:2015年6月7日(日) 開催場所:茨城県笠間市(旧図名:笠間星ノ宮) →全会一致で後援が承認された。
山川 高橋 新粥 高橋 宇井	規約上、後援申請には締め切りがなかっただろうか。 開催日の半年前までに後援申請をすることになっている。 東大会については、締切に遅れていた。 かつて、締切に遅れて嚴重注意された大学があったようだ。 締切に遅れていたことを伝えておいてほしい。
7. 理事会報告	
山川から、理事会として、インカレミドルのシード選手を決定したことが報告された。	
山川	インカレミドルのシード選手を決定した。
8.次期幹事について	
来年度日本学連幹事候補者は以下の通り。(所属・現在の学年)(敬称略) 【日本学連幹事・会計監査】 幹事長→五味 あずさ(金沢大3・現 会計監査) 副幹事長→村瀬 貴紀(筑波大3・現 関東学連幹事長) 会計→大久保 宗典(東京大3・留任) 事業部長→築地 孝和(神戸大2) 広報部長→田中 悠(慶応義塾大2) 事務局長→新粥 文哉(千葉大3・留任) 普及部長→細 正隆(東北大2) 渉外部長→橋場 良太(東北大3・留任) 会計監査→田中 基成(筑波大2・現 筑波大渉外)、田口 茂樹(岩手大2) 【地区学連幹事長】 北東→藤田 麻矢(岩手大学2) 北信越→田中 求(金沢大2・現 北信越学連副幹事長) 関東→小泉 知貴(慶応義塾大2・現 関東学連渉外部長) 東海→石山 良太(名古屋大2・現 東海学連副幹事長) 関西→松浦 知佑(大阪大2・現 関西学連副幹事長)	
9. 技術委員会報告	
宇井より、大西からの技術委員会報告が代読された。シード選手の選出、第3回学連合宿、会計報告、ユニバー会計報告、規約改正案の提出について報告があった。	

<p>宇井</p>	<p>(8日) 大西・技術委員長より、メールが届いている。 1、シード選手の選出 インカレミドルのシード選手(男子8名、女子4名)を推薦して理事会により決定。 2、第3回学連合宿 山リハに合わせて例年通り日光所野において学連合宿を開催。80名が参加。 3、会計報告 学連合宿の会計報告を行った。 4、ユニバー会計報告 ユニバー遠征活動に対する30万円の使途について報告。 5、規約改正案の提出 インカレ実施規則の改正案を幹事に提出。</p>
<p>10. 各部局活動報告</p>	
<p>●会計：今年度会計中間報告、来年度会計予算案作成 ●事業部：後夜祭・講習会準備、第3回幹事会のとりまとめ ●広報部：第3回幹事会議事録作成、ホームページ・Twitter更新、いぶき作成 ●事務局：後援申請の受付 ●普及部：インカレ観戦ガイドの作成 ●渉外部：2月・3月の日光・矢板で開催される練習会についての回覧書郵送</p>	
<p>杉村</p>	<p>【普及】 観戦ガイドに関するアンケートをとって、次期普及部長に引き継ぎたい。</p>
<p>新粥</p>	<p>【事務局】 JOAニュースに関してだが、JOAの予算的な問題と登録先に届かないために大量に返送されてくる ことがあったため、来年度からは、大学ごとに郵送することになった。あと、学生の競技者番号の番 号振りやふるさと登録に関しては、学連事務局が担当することになった。</p>
<p>山川</p>	<p>【渉外】 きちんとしたトレイン案内を作りたい。地図販売については、間違える人が多いのできちんとしたい。 新機軸事業第4台については、下支えとなるような渉外活動が全然できていない。4月から動いて、6 月の幹事会で提案したい。4月には、した渉外をして、学生と一緒に本渉外を行って、秋に大会を開 催したい。 あと、定例のあいさつも行う。4月に私が一度挨拶に伺い、6月ごろに渉外部長と改めて挨拶に伺う。 それは、椈の湖と、日航・矢板について行う。椈の湖については、岐阜県協会との共同版權である。 もうひとつ、今年3月で希望が丘の3年間の貸与期間が終わるので、版權を滋賀県協会に返却す る。</p>
<p>大久保</p>	<p>【会計】 東海学連の過払い金を解消した。 また、インカレロングの助成金15万円をあわら市からあったが、インカレロング実行委員会の口座は 個人名義のため受け取ることができず、その代わりに日本学連が受け取っている。</p>
<p>宇井</p>	<p>結局そのお金はどこへ行くのだろうか。</p>
<p>大久保</p>	<p>インカレロング会計の口座に行く。</p>
<p>山川</p>	<p>それを含めて、インカレロングの会計報告を作成することになる。</p>
<p>宇井</p>	<p>最終的には、それを含めて日本学連に黒字が戻ってくることになるのだろうか。</p>
<p>大久保</p>	<p>それを含めて、8万円の黒字だと言っているのだと思う。インカレ後に15万円を移すことになると思 先ほど、電話があったのだが、ホテルファミテックより、100円×(宿泊した延べ人数分)の寄付を受 けているが、今日(3月5日)約8万円が振り込まれたとのことである。</p>
<p>山川</p>	<p>【広報】</p>
<p>高橋</p>	<p>日本学連ホームページの更新が滞っている部分がある。私は今年度で、広報部長を退任する予定 だが、来年度その更新を専任で行ってほしいとの声を個人的にいただいた。</p>
<p>山川</p>	<p>同じ問い合わせを受けて説明していることが多いので、ホームページを更新してほしい。</p>
<p>11. 各地区学連活動報告</p>	
<p>●北東学連：引き継ぎ ●関東学連：学連総会(2月18日) ●北信越学連：学連総会・引き継ぎ(3月9日・予定) ●東海学連：東海学連広報紙発行、来年度スプリントセレクションの準備 ●関西学連：学連練習会(2月13日)、学連総会(2月15日)</p>	
<p>【関東学連】 関東学連では加盟員が増加し、ミドルセレにはMsに210人がエントリーした。そのため、1レーン制 ではスタート時間が長くなるため、規約に則り、2レーン制を採用した。形式としては、同時スタートの 人が違うコースになるように、2つのコースを提供した。</p>	

<p>村瀬</p> <p>今井</p> <p>宇井</p> <p>糸井川</p>	<p>詳しいことは、実行委員会からの報告書が関東学連ホームページに掲載されているので、そちらを確認してほしい。</p> <p>実際の中ドルセレでは、推薦枠でのトラブルがあった。実際は2つのコースでタイムの速い人が推薦が出なかった時の繰り上がり順位が高いが、実行委員会と関東学連では、「各レーンにおける上位から繰り上がる」とものと誤解していた。これについては、繰り上がり順位を発表した際に指摘があり修正した。</p> <p>実行委員会からの報告書の提出を受けて、関東学連としては、ミドルセレとロングセレの規約の改正になるが、「複数レーンにした時のコース設定に求める条件について明記するかどうか」、「レーン制の分け方に関する参考大会の選び方」、「推薦方法」、また、現在ロングセレではバタフライループしか認められていないため、「ロングセレにおける複数レーン制の導入」について議論していく方針である。これらについては早急に決めたいが、今回の総会では規約案を提出することができず、来年度のロングセレには間に合わない。重要なことなので、時間をかけて議論していきたい。</p> <p>あと、インカレスプリントのセレクションについては、社会人クラブに運営をお願いする。</p> <p>【東海】</p> <p>来年度のインカレスプリントのセレクションについては、競技規則などがまだ成立していないため、東海学連としては実行委員会を設置し、そちらに運営をってもらう方針となった。</p> <p>スプリントのセレクションに関しては、各地区学連の裁量にゆだねられているので、規約制定などの準備をしてほしい。</p> <p>【関西】</p> <p>学連総会では、ロングセレ改正案を決定した。インカレ後の総会で承認を得たい。なお、ミドルBエリートなどの関係があるので、変更が生じた場合は、柔軟に対応できるようにしたい。</p>
	<p>12.次回幹事会、総会について</p> <p>【次回総会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開催日:3月9日(後夜祭翌日) ●開催地:ホテル明山荘 コンベンションホール『鳳凰(D)』(愛知県蒲郡市・後夜祭会場) <p>【次回幹事会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開催日:6月6日(東大大会前日) ●開催地:茨城県

【備考欄】

5日:17時19分 山川 途中出席
8日:20時16分 山川 途中出席